

# 資本コストや株価を意識した経営について

(株)ユニテッドアローズ

2024年2月7日

## 現状評価

- 2023年3月期のROEは13.6%。当社算出の株主資本コストを超過するが、過去の水準には届かず
- PBRも1.6倍で市場評価の回復には至っていない
- 2020年12月に連結対象から除外されたCHROME HEARTS JP合同会社に代わる収益の柱を確立できていないことが主要因
- 中期経営計画最終年度（2026年3月期）に営業利益 90～100億円（売上比 5.6～5.9%）、ROE 13.8～15.4%、長期的（2033年3月期）には営業利益250億円（売上比10.0%）を目指す

		2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
売上高	百万円	158,918	157,412	121,712	118,384	130,135
営業利益	百万円	11,063	8,758	-6,613	1,683	6,362
売上比	%	7.0%	5.6%	-	1.4%	4.9%
当期純利益	百万円	6,417	3,522	-7,197	732	4,341
株主資本	百万円	37,810	38,634	29,868	30,210	33,897
ROE	%	18.0%	9.2%	-	2.4%	13.6%
発行済株式数	株	28,372,794	28,375,350	28,477,882	28,497,881	28,495,284
期末時点株価	円	3,855	1,625	2,106	1,821	1,919
PBR	倍	2.9	1.2	2.0	1.7	1.6



<b>2026年3月期</b>	
営業利益	90-100億円
売上比	5.6～5.9%
ROE	13.8～15.4%
<b>2033年3月期</b>	
営業利益	250億円
売上比	10.0%

## 現状評価と課題の特定

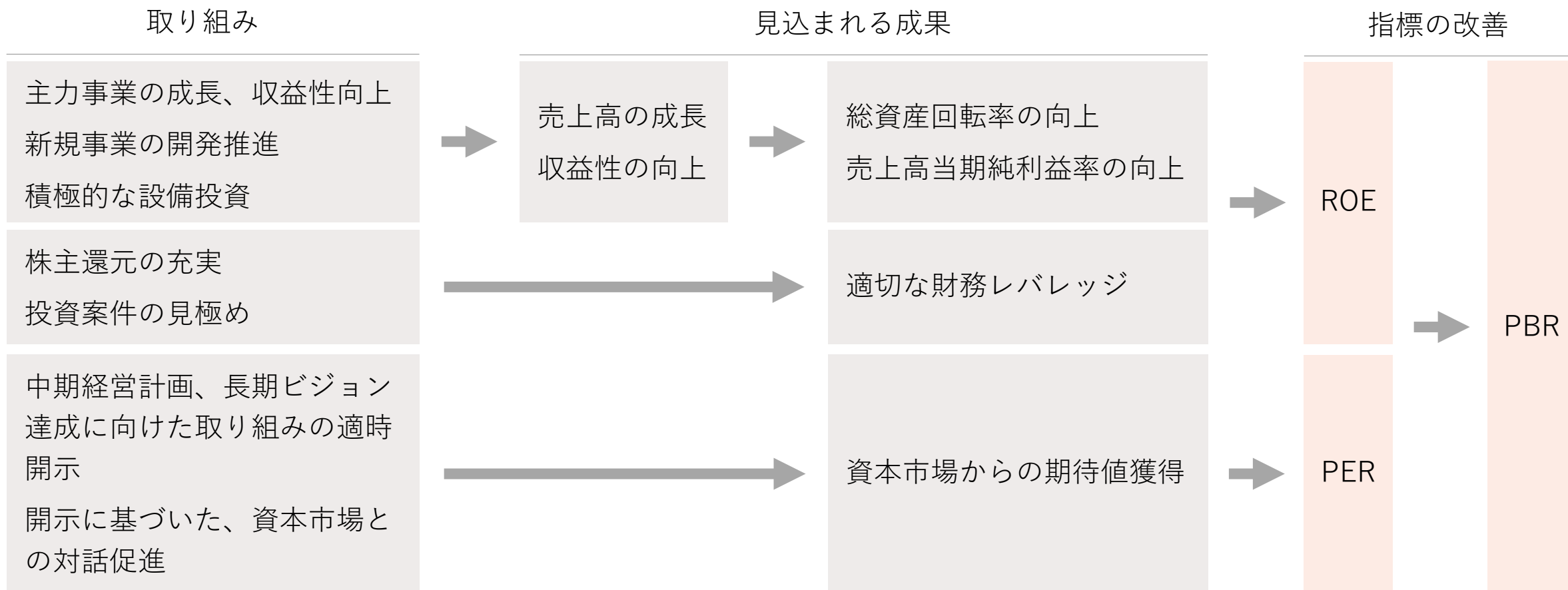
- 各指標を2019年3月期と比較し、売上高当期純利益率とPER（株価収益率）を主要課題に設定
- 売上拡大と収益性の改善、中長期の期待値醸成を中心に対応を図る

$$\begin{array}{c} \text{PBR} \\ \hline \frac{\text{時価総額}}{\text{純資産}} \\ \hline \text{株価純資産倍率} \end{array} = \begin{array}{c} \text{ROE} \\ \hline \frac{\text{当期純利益}}{\text{売上高}} \times \frac{\text{売上高}}{\text{総資産}} \times \frac{\text{総資産}}{\text{自己資本}} \\ \hline \text{売上高当期純利益率} \quad \text{総資産回転率} \quad \text{財務レバレッジ} \end{array} \times \begin{array}{c} \text{PER} \\ \hline \frac{\text{時価総額}}{\text{当期純利益}} \\ \hline \text{株価収益率} \end{array}$$

		2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
売上高当期純利益率	%	4.0%	2.2%	-	0.6%	3.3%
総資産回転率	回転	2.2	2.2	1.9	2.0	2.1
財務レバレッジ	倍	1.9	1.8	2.1	2.0	1.8
PER（株価収益率）	倍	17.0	13.1	-	70.8	12.6

# 改善に向けた方針

- 以下の取り組みを通じ、ROE、PER、PBRの改善を図る



# 改善に向けた方針・対策：中期経営計画の主要戦略

- 指標向上に向けた方針と対策は、現行の中期経営計画に織り込まれている

## 3つの主要戦略

提供 感動  
KANDOU  
TEIKYO

ENGAGEMENT  
WITH CUSTOMERS

お客様と深く広く繋がる

UA  
CREATIVITY  
戦略

- 既存事業の成長拡大  
トップラインの成長  
売上総利益率の向上
- ブランド力の強化  
人的資本への投資拡大  
企業ブランドのリブランディング
- コーエンの再成長

UA  
MULTI  
戦略

- 業容拡大に向けた事業開発
- グローバル拡大

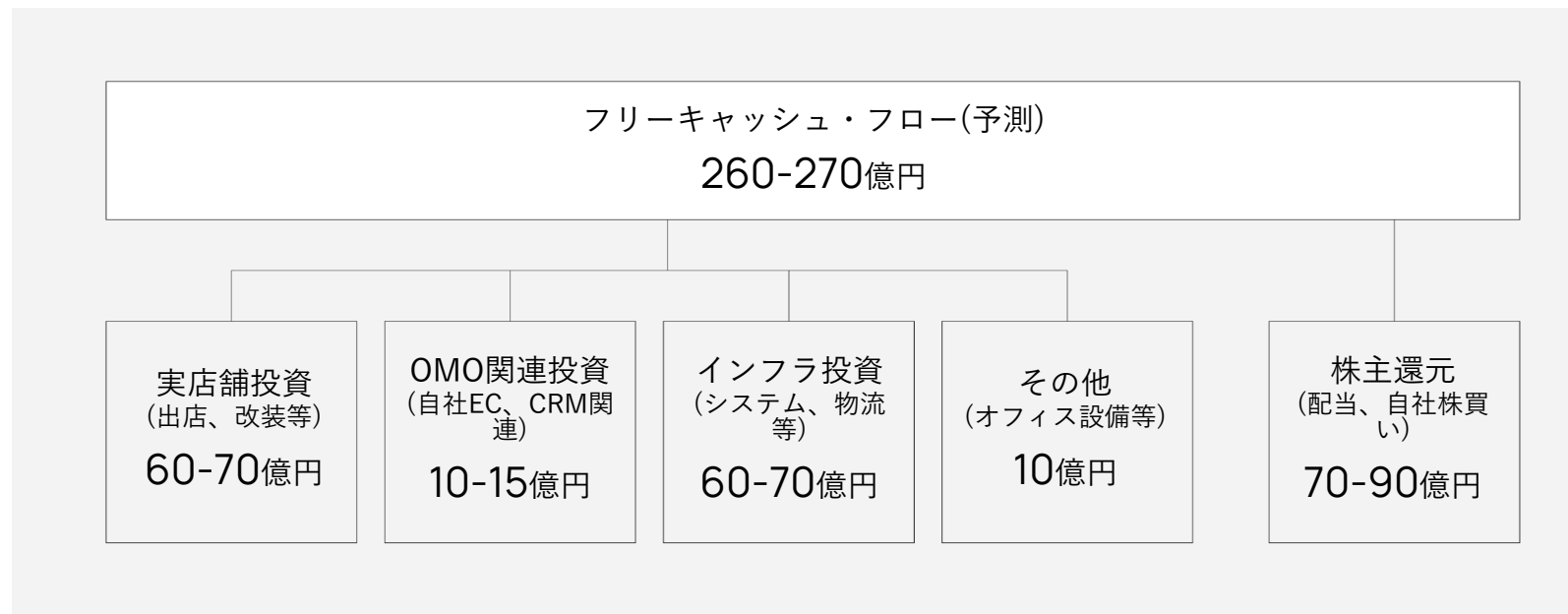
UA  
DIGITAL  
戦略

- OMOの推進
- サプライチェーンの最適化

## 改善に向けた方針・対策：キャピタルアロケーション

- 中長期視点での成長と株主還元のバランスがとれるよう、キャピタルアロケーションを適切に管理
- 事業活動で得たキャッシュを成長投資と株主還元戦略的に分配
- 事業の成長と資本収益性の向上を図る

### キャピタルアロケーション



## 改善に向けた方針・対策：中期経営計画の定性目標

- 中期経営計画の推進によって、計画している売上、利益成長の実現と収益性の改善を図る

### 中期経営計画 2023-2025

UAグループ  
経営目標(連結)

売上高  
1,600-1,700  
億円

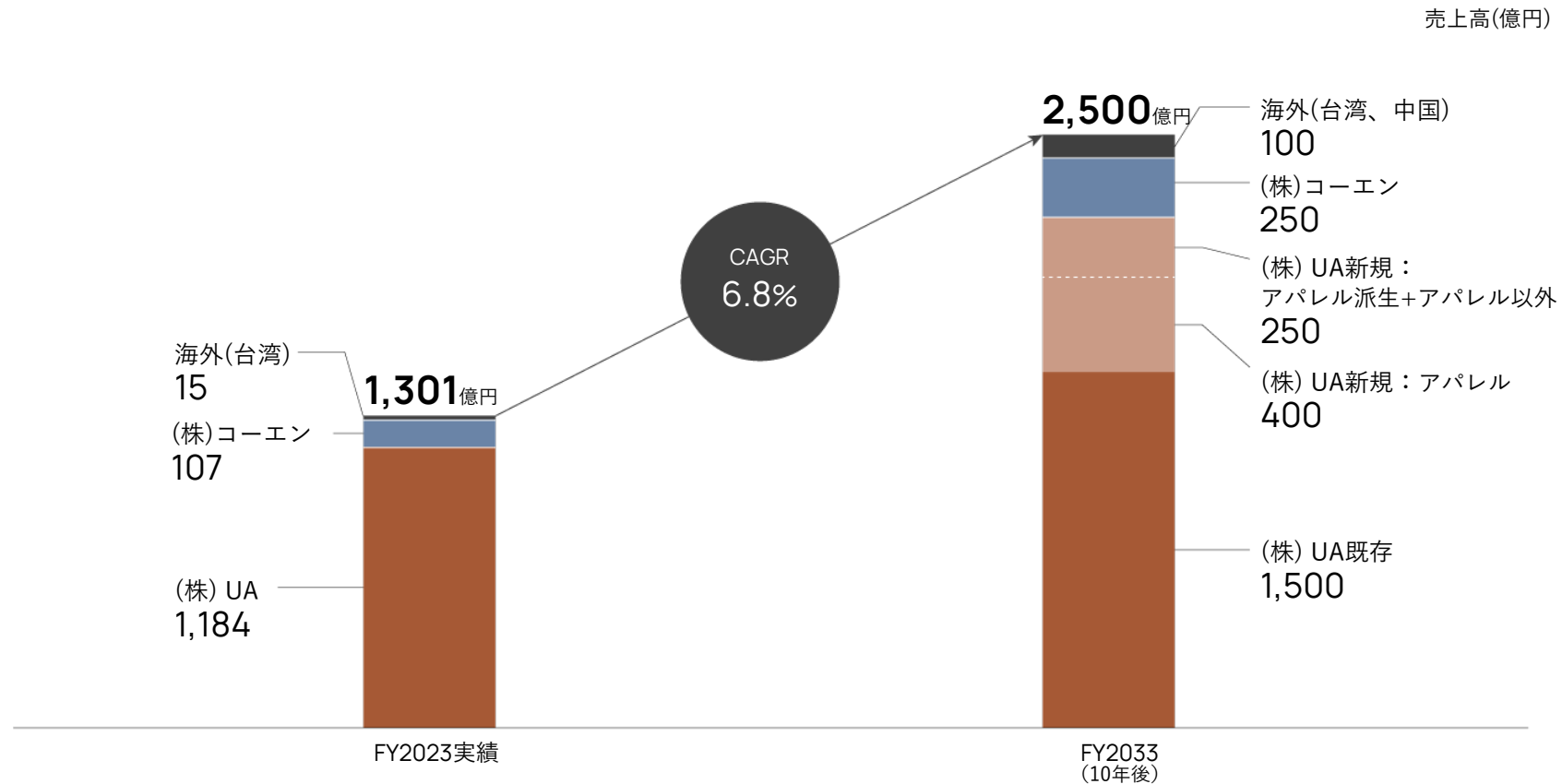
営業利益 90-100 億円

営業利益率 5.6-5.9 %

ROE 13.8-15.4 %

## 改善に向けた方針・対策：長期的に目指す姿

- 2033年3月期には連結売上高2,500億円、営業利益250億円（売上比10.0%）を目指す





## 参考：資本コストを踏まえた出店・改装投資の判断基準

- 予想キャッシュフローをもとに、NPV（正味現在価値）とIRR（内部収益率）を算定
- 将来キャッシュフローの現在価値が出店投資額を上回り、当社設定のハードルレートを超える案件へ投資
- 営業活動で得たキャッシュを適切に活用することで、成長投資による資本収益性向上を目指す
- これまで以上に新規事業にチャレンジしやすい環境を整備し、成長を目指す